

★永世中立は朝鮮半島の回答になりえるか＝サンプル・ジン（朝鮮史研究）

米中の対立が激化するなか、韓国がどこまで自主的な立場をつらぬけるかはわからない。韓国の政策立案者にとっては、同国の地政学的な立場を強める新しい戦略を持つことがますます必要になっている。永世中立、つまり国際条約の下で南北朝鮮が将来のいかなる大国間紛争にも中立を貫くと宣言することは、試合の流れを一機に変える選手のような役割を果たし、東アジアの安保構造を転換させつつある国際的な力関係の構造を適切に反映していくことになるだろう。

朝鮮半島の永世中立化は、ユーラシア大陸の心臓部への出入り口であるこの地域が米国の地政学的な構想に影響されにくくなることで中国を安心させるだろう。戦わずして敵を征服するという孫子流の平衡メカニズムは、米国の立場からは、朝鮮の中立的な地理を利用することによって中国の覇権主義的な野望を封じ込めるだろう。なぜなら半島は大陸アジアと海洋アジアの自然な緩衝地帯になるからだ。さらに朝鮮の中立化は他の紛争地域での将来のライバル（米中）協力のテストケースになるかもしれない。

ロシアと日本も中立化から得るものがある。ロシアはアジア太平洋地域で第三のパートナーになることをめざしているので、韓国の新しい地政学上の地位は、北東アジアの統合をめざすロシアのビジョンに沿ったものになる。米国は朝鮮の経済戦略を一方的に決めることはできなくなるだろう。日本は伝統的に、朝鮮半島を大陸の敵対勢力にたいする緩衝地域とみなしてきた。しかし朝鮮が中立化されれば「自由で開かれた」アジア太平洋に向けた日本の動きを後押しすることになるだろうし、中国が朝鮮を足場にして太平洋へ容易に進出する機会もなくなるであろう。

中立化がもたらす南北朝鮮への恩恵は大きい。南北朝鮮とも、上述した4大国と差し向ったときの、経済、軍事、技術上の劣勢は痛いほど身に染みて知っている。中立は、以前は捉えどころがなく曲がり易かった自主権を実現する理想的な戦略である。将来の統合を目指して、初めは政治、経済の段階的な統合から実現していくだろう。

永世中立にむけた最初の措置として、米国と他の地域大国は協力して朝鮮半島の平和システムを構築する必要がある。中立化には永続的な平和と安定が必須だからである。このためには南北間のハイレベルの政治、軍事対話を恒常化して対話の勢いを維持し続け、軍隊の移動の事前通告や非武装地帯の地雷撤去のような信頼醸成と安全構築措置を実行する必要がある。南北と米中による戦争終結宣言も追求する必要がある。見返りに北朝鮮は非核化の言行を一致させて、核施設への国際査察再開に同意する必要がある。次に、核兵器の封印と大陸間弾道ミサイルの廃棄と引き換えにすれば、北朝鮮は中韓米との平和条約を調印できる

だろう。これによって北東アジアの新しい安保構造の基礎を準備することになりだろう。

すでに韓国に広がっているこの構想を確かなものにするには、南北と米中は日本、ロシアと協力して北東アジア安保フォーラムを始める必要がある。この年次フォーラムは軍備管理や北東アジアの多国間対話のような朝鮮半島の中立化に関連した安保問題を扱うことになる。それによって参加国は新しい協力のメカニズム、地域での偶発紛争の阻止など手間かかる必須のプロセスを探求することができる。

この期間に北朝鮮の段階的な非核化がおこなわれることになるだろう。国際原子力機関（IAEA）の監視による検証には、国際的な制裁の段階的な緩和が伴う。共同の学問研究や産業、インフラ計画、軍事交渉や議員レベルの対話によって、南北の平和的共存を粘り強く促進していく必要がある。やがて南北朝鮮は中立統一にむけた交渉の枠組みを作ることができるかもしれない。非核化の進展によるが、米朝関係の段階的な正常化もありそうで、北朝鮮が最も必要としている合法政権化につながる。通常兵器の軍備管理を実行して緊張を緩和させなければならない。この合意には、正確な時間帯とスケールが必要で、米朝韓の軍人で構成される共同管理団によって計画され検証されることになる。米中はこれとは別に韓国からのTHAADの撤去についての話し合いを準備する。その際、中国は北朝鮮の非核化促進を図る外交手段を使うことになるだろう。

スイスの永世中立化を取り決めたウィーン会議の偉業に従うと、最終段階では、朝鮮の永世中立を取り決める拘束力のある条約をまとめる特別のセッションが必要になる。中国と日本、ロシア、米国がその保証人となる。その際米国は在韓米軍の駐留を終了することに合意するだろう。すでにこの戦略は政策担当者の間では弾みがついているが、朝鮮の中立化の後、米韓同盟を終結する。これらの諸措置によって非同盟、中立の朝鮮への道が開かれる。

（以上）。

（東アジアフォーラム 9 月 15 日付）著者は香港在住の歴史家。朝鮮研究でロンドン大学博士号。18 世紀末から 19 世紀初めの朝鮮中立化をめぐる歴史が専門。